

## 2-5. 生駒市

No.	1	生駒市
-----	---	-----

### 1. 取組の全体像

#### 1. 自治体の概要

①	自治体名	生駒市(奈良県)	②	担当部局名	福祉健康部地域包括ケア推進課地域共生サミット推進室
③	人口	116,675(人)<令和2年10月/国勢調査>			
④	自治体内連携	庁内連携(メイン)	連携部局	地域共生社会推進会議(市長を会長とし、庁内全部局が参加)	
			連携内容	地域共生社会の推進に関する施策の協議、推進及び情報の共有等を部課横断的に行う。	
		庁内連携(メンバー)	連携部局	—	
			連携内容	—	

#### 2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿

①	従前の取り組み ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁内の連携強化のため、全部局横断の「地域共生社会推進会議」を設置(改組)。また、重層的支援体制整備事業の移行準備事業を実施。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>調査</td> <td>高齢者一人暮らし調査等</td> </tr> <tr> <td>構想・方針</td> <td>重層的支援体制整備準備事業</td> </tr> <tr> <td>体制</td> <td>地域共生社会推進会議、重層会議</td> </tr> <tr> <td>実施</td> <td>総合相談窓口の設置</td> </tr> <tr> <td>評価・検証</td> <td>—</td> </tr> </table>	調査	高齢者一人暮らし調査等	構想・方針	重層的支援体制整備準備事業	体制	地域共生社会推進会議、重層会議	実施	総合相談窓口の設置	評価・検証	—
調査	高齢者一人暮らし調査等											
構想・方針	重層的支援体制整備準備事業											
体制	地域共生社会推進会議、重層会議											
実施	総合相談窓口の設置											
評価・検証	—											
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	最終的なゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF が孤独・孤立対策の継続的な協議の場として機能する。</li> <li>地域全体で孤独・孤立へのアンテナが高まり、孤独・孤立の問題が早期に発見され、かつ、多様な居場所が存在する。</li> <li>分野等を越えた様々な主体が協働し、福祉に限らない様々なアプローチによる、きめ細かな支援が行われる。</li> </ul>									
		今年度のゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF メンバーがお互いの取組を把握し(課題や資源の共有)、顔の見える関係性を築くことで連携を強化。</li> <li>ポータルサイトを作成し、支援策や相談先等の市民向けの情報発信を強化することで相談しやすい体制を整備。</li> </ul>									

#### 3. 地方版連携 PF における連携体制

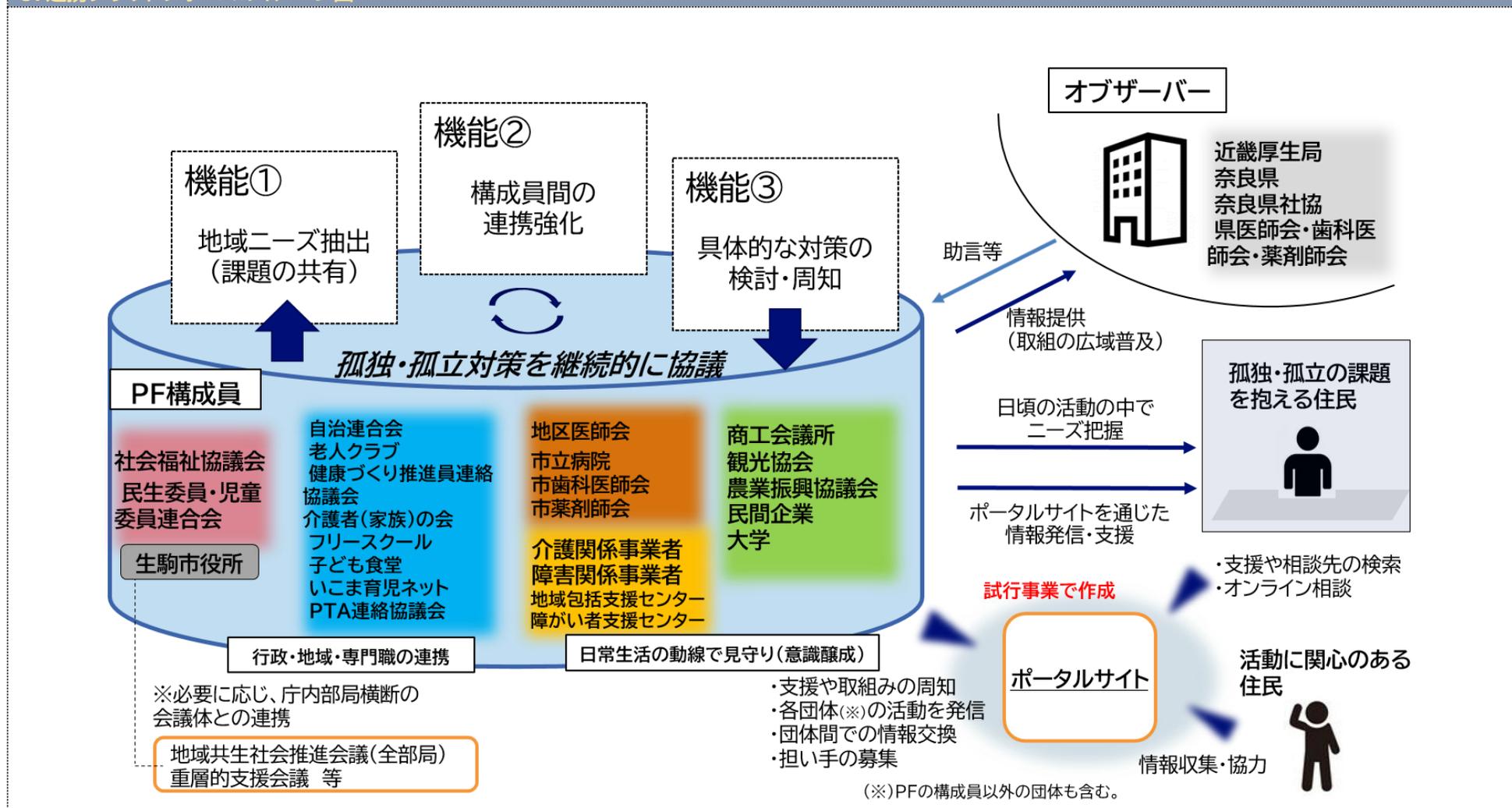
①	地方版連携 PF ※各種団体が「水平的」「包摂的」に集う最も大きな枠組み	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護・障害福祉関係事業者、社協、商工会議所、大学、民間企業、自治連合会、民生・児童委員連合会、老人クラブ、PTA 協議会等</li> </ul>
		選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域共生社会の実現に向けた取組と一体的に行うため、既存の地域共生サミット実行委員会を PF の基盤とした。</li> </ul>
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	参画メンバー	—
		選出・打診時の工夫	—

#### 4. PF 連携による価値や工夫 考え方

<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の関係機関が情報共有や目線合わせを行える継続的な場の設置</li> <li>政策課題の抽出、対応策の検討、周知を一体的に行う。</li> <li>ポータルサイトを活用して、孤独・孤立の課題を抱える人に情報を届けやすく、かつ、多様な主体が関わりを持てる環境を整備する。</li> </ul>
---

## 2. 連携 PF イメージ

### 5. 連携プラットフォームのイメージ図



(連携プラットフォームの内容説明)

生駒市における連携プラットフォーム(連携 PF)は、行政・地域・専門職のほか、三師会、経済団体等日常生活の動線で見守りをする関係団体で構成されており、オブザーバーとして、広域の機関・団体との連携も行っており、情報提供や助言をもらう体制となっている。PFの機能としては、地域ニーズの抽出(課題の共有)、構成員間の連携強化、具体的な対策の検討・周知が期待されている。

### 3. 試行的事業一覧

#### 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業のポイント・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF 形成に向けて、市民や参画団体への認知・理解向上を進めるとともに、PF 形成後の団体間での円滑な連携もサポート</li> <li>事業間での連携による相乗効果の発揮</li> </ul>
---------------	--

	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先(予算)
①	先進事例の視察・シンポジウムの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF 準備会の構成員による地域共生社会推進全国サミット in とよたの視察。孤独・孤立対策の先進事例を学び、構成員間の連携を強化するとともに今後の取組に反映できるよう、参加者間で意見交換等を実施。</li> <li>孤独・孤立対策に広く関心が集まり問題意識や地域資源が共有されることを狙いとして、PF の設置を契機とした一般の市民向けのシンポジウムを実施。上記視察の成果をシンポジウムの中にも盛り込むほか、PF や今年度の試行事業についても周知し市内関係者の機運醸成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民や PF 参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識の共有及び理解向上を図る。</li> </ul>	<p>【事例視察】</p> <p>✓10/12-13</p> <p>【シンポジウム】</p> <p>✓2/18</p>	<p>【事例視察 (約 69 万円)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本旅行ビジネスソリューションズ株式会社</li> <li>・いこまつーリスト(株式会社アイテム)</li> </ul> <p>【シンポジウム(約 76 万円)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本旅行ビジネスソリューションズ株式会社</li> </ul>
			<p>成果検証結果</p>		<p>【事例視察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ PF 参加団体間での関係強化</li> </ul> <p>【シンポジウム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ シンポジウムの参加者数: 300 名程度</li> <li>➢ 参加者アンケート:「満足」との回答が 85%以上</li> </ul>
②	孤独・孤立対策に係るポータルサイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の孤独孤立対策の支援策・相談先を一覧化したポータルサイトにコンテンツを掲載。(コンテンツの検討に当たっては、PF メンバーとの意見交換等を実施。)</li> <li>孤独・孤立に関するイベント等居場所・つながりづくりに関する情報も掲載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に向けた孤独・孤立に関する情報発信、支援団体間でのコミュニケーションの円滑化。</li> </ul>	<p>✓~12 月 関連施策の整理・ 収集・コン テンツ検 討</p> <p>✓3 月開 設、以後 随時改 善・拡充</p>	<p>ICO webdes ign (約 64 万 円)</p>
			<p>成果検証結果</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ サイトへのアクセス数: 864 (R6.2.29~)</li> </ul>

③	孤独・孤立に係るアウトリーチ(訪問調査)の試行実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立の悩みを抱えている人を地域の力で早期発見し、課題解決・伴走支援につなげていくことが重要という問題意識から、引きこもりや介護など孤独・孤立で悩んでいる人を把握するための全世代型の調査を試行的に実施。</li> <li>具体的には、調査票を作成し、自治会・地域包括支援センターと連携した訪問調査を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月～12月 関係者調整</li> <li>1月 調査様式検討・作成</li> <li>2月 調査</li> </ul>	(株)メディテクノサービス (約46万円)	成果検証結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答率:訪問:51.0%、郵送:26.9%</li> <li>新たに把握した孤独・孤立を抱える人の数22人(訪問:13人、郵送:9人)</li> </ul>
					④	孤独・孤立支援ポータルサイト啓発ステッカーの作成

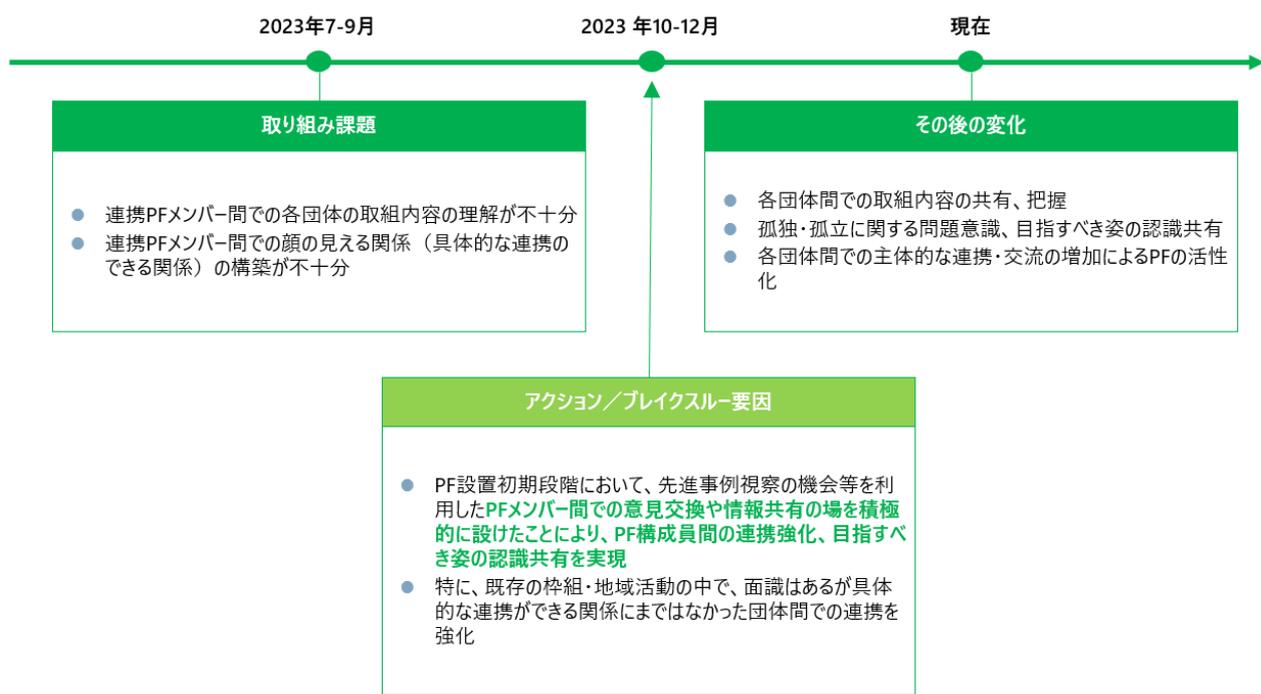
7. 次年度以降に向けた事業等の案	
※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙	
<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策に係るポータルサイト:PF メンバーや支援団体等利用者からのFB を踏まえて改善等を図っていく予定。</li> <li>アウトリーチ(訪問調査):本年度は、特定の地区で試行的に実施し、効果を実感できるようであれば、今後地区を広げていく、または調査票の改善等を行っていくことを想定</li> </ul>	
8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響	
<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウムは、会場はほぼ満席、加えてオンラインの視聴申込みが100人程あり、孤独・孤立に関する関心の高さを感じた。</li> <li>PFのメンバーも、当初から孤独・孤立に問題意識を持ち、又は意義に賛同いただける方が多くいた。</li> </ul>	

4. 連携PFの行程および実務上の留意点	
(ア) 初期段階	
①	主担当部署・主担当者の設定 <b>■様々な分野が連携しつなかりを構築する孤独・孤立対策と軌を一にする施策の担当部署を選定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な分野が連携しつなかりを構築する観点で孤独・孤立対策と軌を一にする地域共生の部署を中心に取組を推進。</li> <li>重層的支援体制整備事業等との親和性の高さに鑑みて、福祉政策を総括する課を担当課とすることも考えられたが、福祉色が前面に出過ぎることで孤独・孤立対策について狭く受け止められることを避け、より広い地域共生社会の文脈で取り組むことを目指した。</li> <li>サミット室は地域包括ケア推進課内に設置された室であるため、地域包括支援センター等の地域資源を有効に活用し、対策が検討できるという利点も考慮。</li> </ul>

②	地域課題・実態の概略の把握	<p>■<u>地域の活動主体等と日常の活動の中で把握している課題や問題意識を共有する場を設定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自治会や健康づくり推進員等の住民主体の活動や、福祉関係者の取組など、孤独・孤立対策と関連のある取組・活動主体は既に地域に存在していた。</li> <li>▶ このため、PF 準備会のほか、先進事例の視察の行程で、関係者から日ごろの活動の中で感じていること等を共有いただく場を設定し、統計的な理解ではなく、実感としての現状を知ることを目指した。</li> </ul>	
③	連携 PF の絵姿の描写	<p>■<u>地域における継続的な協議の場として活用するとともに、福祉分野に留まらない支援を実現</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ PF が地域における孤独・孤立対策の継続的な協議の場として機能することを目指す。</li> <li>▶ 分野等を超えた様々な主体が協働し、福祉に限らない様々なアプローチによる支援を実現する。</li> </ul>	
<b>(イ) 準備段階</b>			
④	地域課題の詳細調査	<p>■<u>支援団体間で、孤独・孤立に関する現状・課題認識の共有の場を設定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ PF 構成員による先進事例視察の行程も活用して、孤独・孤立に係る現状・課題の認識共有の場を設定。</li> </ul>	
⑤	連携 PF の運営形態・体制の検討	<p>■<u>PF としての取組を活性化する観点から、行政が PF の取組を徒に狭めないよう必要な機能のみを提示</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 市の強みである活発な住民活動の担い手及び高齢分野等の福祉関係者を含める他、日常生活の動線にある主体として医療関係者や民間企業等の参画を求めた。(なお、民間企業等については包括連携協定を締結している団体に声をかけた。)</li> <li>▶ 類似の協議体に屋上屋を重ねることを避ける観点から、サミット室において設置に向けた検討を行っていた「地域共生社会推進全国サミット実行委員会」を孤独・孤立 PF と兼ねることとした。</li> <li>▶ 参画依頼の際、孤独・孤立対策に既に問題意識を持っている又は意義に賛同していただける委員が複数いたことから、PF 設置に際しては、行政が徒に射程範囲を狭めないよう、敢えて細かいタスクを設定せず、PF が担う機能(地域ニーズ抽出・構成員の連携強化・具体的な対策の検討周知)のみを示した。</li> </ul>	
⑥	連携 PF の参加者の検討・巻き込み	庁内	<p>■<u>理念的な庁内連携だけではなく、具体的な事業ベースで協働の働きかけを実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域共生社会推進会議(市長がヘッド、全部局が参画)にて、地域共生施策の協議・推進・情報の共有等を部課横断的に実施する。</li> <li>▶ 理念的に連携を求めただけでなく、庁内の既存支援策の収集や、アウトリーチで把握した課題の対応など、具体的な事業ベースで協働の働きかけを実施。</li> <li>▶ 特に、来年度以降、重層的支援体制整備事業等と連携していくことを見据えて、重層担当課と随時情報共有・意見交換を実施。</li> </ul>
		庁外	<p>■<u>活動のさらなる展開を狙いとして市域に留まらない広域の団体との連携体制を構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 関連部署への照会・掘り起こしを実施</li> <li>▶ PF の活動が継続していくよう(=収束・縮小していかないよう)、市外(県域)の団体にもオブザーバーとして参画を求め、広い視野での情報提供・助言などを得られる体制を構築。</li> </ul>
<b>(ウ) 設立段階</b>			

⑦	域内住民・団体への 情報発信	<p>■関連イベントとの一体的なシンポジウムの実施による効果的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ シンポジウムを開催。開催に当たっては、地域共生社会の推進に向けたイベントとの連携・一体的な開催により、幅広い対象に情報が届くよう周知を実施した。</li> <li>➢ ポータルサイトを設置。検討段階から PF 参加団体にも意見等を収集し、自分事として主体的に参画を促すよう工夫した。</li> <li>➢ 福祉関係事業者等向けの研修の際に、孤独・孤立対策についても周知を行った。</li> </ul>
⑧	連携 PF の運営	<p>■PF 設置初期段階では、構成員間の取組の把握・問題意識の共有のほか、論点設定や事前の趣旨説明の丁寧な実施が肝要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ PF の基盤整備の一環として、構成員間の取組を把握(課題や資源の共有)すべく、認識共有及び構成員間の関係強化を図った。</li> <li>➢ PF の基盤整備の一環として、先進事例の視察を通じて、孤独孤立対策に係る認識共有及び構成員間の関係強化を図るとともに、本モデル事業で行う他の試行的事業(ポータルサイトの構築やアウトリーチ等)をより効果的に行うための意見交換の場として PF を活用した。</li> <li>➢ PF 設置当初は、できる限り幅広い分野のメンバーに参画を求めたい一方で、大所帯になればなる程、PF の場が形骸化することや、孤独・孤立の問題に関する意識の濃淡による構成員間の「温度差」が生じるリスクが高まる。事務局(行政)においては、論点設定の仕方や事前の趣旨説明等の丁寧な実施が重要。</li> </ul>
<b>(工) 自走段階</b>		
⑨	今年度の積み残し 課題	<p>■今後のさらなる枠組みの拡大や継続的な取組につなげる必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ PF の運営体制として、今後、孤独・孤立に直接的に関係が少ないと思われる団体をどのように巻き込んでいくか検討が必要。</li> <li>➢ 地域共生の関連事業との一体的な推進の後に、継続的な取組にいかにつなげるか。</li> </ul>
⑩	来年度以降の方針	<p>■PF の分科会設置、関連する施策との連携を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ さらなる新たな取組を検討すべく、分科会などの設置も検討。</li> <li>➢ 重層的支援体制整備事業等と連携していくことを見据えて、重層担当課と随時情報共有・意見交換を実施。</li> </ul>

ブレイクスルー要因	
アクション/ ブレイクスルー要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF 設置初期段階において、先進事例視察の機会等を利用した PF メンバー間での意見交換や情報共有の場を積極的に設けたことにより、PF 構成員間の連携強化、目指すべき姿の認識共有を実現</li> <li>特に、既存の枠組・地域活動の中で、面識はあるが具体的な連携ができる関係にまではなかった団体間での連携を強化</li> </ul>



## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

### 社会福祉法人いこま福祉会

- ・ 平成 13 年 12 月に社会福祉法人として設立し、障がいのある方々が地域生活において必要とするサービスを提供・支援。障がいがあっても、地域の中で地域の一員とし暮らすことが当たり前の社会の実現と障がいのあるなしにかかわらず、地域社会を構築し社会を支える一人として、自尊心と自立心を持って暮らすことのできる社会の実現を目指している。
- ・ 具体的には、就労継続支援 B 型、生活介護事業、福祉ホーム事業、グループホーム事業、居宅サービス、指定相談支援事業等を実施。
- ・ 「やまびこネットワーク」という、子ども達を地域で守るという地域活動に参画し、挨拶運動や地域の祭りを開催するなどコミュニティ活性化に取り組む。

#### 📍地域コミュニティの活性化に向けてゆるやかにつながる仕掛けづくりが重要

- ・ 全国的に、地域のみならず家族のつながりや家族力も低下している。また、公的なサービスが整備され向上する一方で、地域自らが考える解決力は衰退している。生駒市では、ベッドタウンという地域性もあり、新しい住民と昔からの住民の交流が以前よりも減っていることから、コミュニティの活性化が必要。
- ・ コミュニティ作りにおいては、緩やかにつながることが重要であり、如何に当事者のモチベーション高めめるかがポイントになる。楽しいと思えるように、無理を言いつぎない。「どんまい、どんまい」と失敗を逆に楽しめるような少し気楽に話せる関係性ができるとよい。また、テーマを掲げ、企業・地場産業にも地域での祭りの場などにきてもらうことで、コミュニティの強化を図り、つながる仕掛けづくりが重要。

#### 📍自らの団体・機関の専門分野だけにとらわれずに、くらしの目線で見ていくことの重要性

- ・ 専門性が高まることで気を付けなければならない点が二つある。一つ目は、問題に焦点をあてた分析的なアプローチが行き過ぎて、支援者が症状や問題に目を奪われて、いつしか本人の全体像や生きる姿を見失ってしまうこと。症状ではなく、生活や暮らしの視点を大切に支援していく必要がある。
- ・ 二点目はサービスの専門性が高まることでより特化した分野別のサービスが敷かれ、サービス提供者同士の連携がうまく機能せず、サービスの間を埋める努力を怠り、割り切った支援に陥る危険性がある。一見、当事者のみの問題に思えることが、実は背景にその家族の抱える課題が複雑に絡まっていることが多い。その為、問題解決にはその家族全体への配慮とアプローチが必要となる。普段から互いの活動を理解し各機関との顔の見える関係を構築して、気になることが率直に話し合える場づくりが大切である。

#### 📍フォローシップ型の組織づくり

- ・ 民間支援団体は、組織的にも規模が小さく行政機関と比べるとフットワークも軽い。しかし構成団体が多く集まり、大規模な集団となるとその事情も変わってくる。行政も含めて各々の自発的な取り組みに関心を抱き素早くキャッチして、柔軟に活動に取り組んでいけるような組織作りが必要
- ・ PF は誰か一人が主人公となるリーダーシップ型では、周りの団体や機関が任せってしまうので継続できない。個人や個別の団体のみで実施すると限界があるため、他の団体、機関がしんどさをかばっていけるような形が望ましい。すなわち、フォローシップが重要。



連携 PF をオーケストラに例えたとするならば、器楽奏者である各支援団体は、行政の振るタクトによってその持ち味や潜在性を引き出され共鳴し、奏でる音色は総和以上のものとなり、その演奏は、対峙する当事者や観衆となる地域住民の心に安らぎを生み、街全体に一体感を醸し出す。そういった心の豊かさにつながる活動に発展することを期待する。

社会福祉法人 いこま福祉会 理事長  
浅井 伊知人

## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

### フリースクール和草

- ・ 2022年に一般社団法人として設立。フリースクール、個人塾、地域食堂、コミュニティスペースなどの企画、運営、民泊等の事業を実施している。
- ・ 当初は任意団体として始まり、こどもの7人に一人が貧困という問題を受けて、こども食堂の取組から始まった。その後、こどもだけではなく家族や親御さんも含めて対象とするべく、3年目に地域食堂に名前変え、2024年に活動9年目を迎える。また、不登校のこどもに対して、フリースクールが必要と考え、フリースクールの事業も開始。その後事業を増やし、現在に至る。

#### 🔍相談先の一元化・住民への紙媒体での可視化

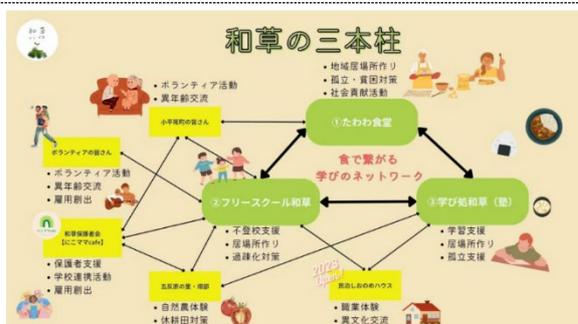
- ・ 本当に困っているときは適切な相談先や支援先を調べるできないケースが多い。行政や支援機関の情報は充実しているがゆえに、情報が多すぎるケースがある。
- ・ とにかく困っているときに誰に相談、連絡したらよいかを住民が分かる仕掛けが必要。相談した上で、必要な機関につないでもらう仕組みが必要。
- ・ ネットでは情報が多すぎるケースがあるので、こども110番の仕組みのように、紙媒体で見えるところに掲示しておくことも効果的。

#### 🔍各支援団体間での取組内容の把握が重要

- ・ 支援団体、組織間ではそれほど横のつながりが無い。つながるきっかけはあるが、気軽に相談ができるまでの関係性にはない。
- ・ また、支援団体が相談を受けるケースの中には深刻なケースもある。信念ある団体ほど自分たちの活動を継続しようとしてしまい、無責任に他の団体や機関につなぐことはできない。同様に、無責任に自分の団体で引き受けることも現実には難しい。
- ・ 各団体のことを互いに知らない状態では、PFとしての結束が出ないので、まずは、各団体のことをお互いにより知る必要がある。堅い会議での交流ではなく、ライトな交流の場があることも効果的。次第に、相談事例が上がってきた場合に、どういったケースではどの団体につなぐという連携が可能になる。

#### 🔍実践型の枠組の必要性

- ・ 枠組みだけ作っても、人と人がつながらないと機能しないため、ただ会議するという枠組ではなく、楽しい取組が生まれるような話し合いの場にする必要がある。また、各団体が知らないうちに物事が決まっているというようなことがないようにする必要がある。
- ・ 同時に、実際に議論したことが実現されるワークショップにするなど、実践型の枠組みにすることが有効。



孤独・孤立対策を進めていくためには、連携プラットフォームに所属する団体同士の横の繋がりが重要だと思っています。みんなが横並びの関係で、困ったときに気軽に声をかけあえるようなプラットフォームにしていきたいです。

一般社団法人和草 代表理事  
溝口雅代

## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

株式会社 やまと

- ・ 奈良や大阪、岡山において、「子どもや若者が明るく元気に活動ができるよう助ける」ことをコンセプトにして、就労支援をはじめさまざまな事業展開。
- ・ 若者たちが、少しでも前を向いて元気に生きていけるよう、就労支援・学習支援をメインにした活動を実施。奈良をはじめとする各地で「若者サポートステーションやまと」の運営や、障害児通所施設事業である「放課後等デイサービスまなび家」を設置。
- ・ 生駒市の「ユースネットいこま」の運営を行っており、若者に限らず親御さんの相談や、居場所作りも実施。このほか、生活困窮の支援等も実施している。

### 🗨️ PF においては、コーディネーターによる運営や支援団体へのサポートが重要

- ・ PF のような連携の枠組みでは、コーディネーターのような場を運営する役割を担う団体・人が重要。お困りごとや相談が来た際に、どの団体が連携し、支援につなぐ必要があるのか、指示ができる支援者のコーディネーターの立場の人が必要。
- ・ また、民間団体に支援に関わってもらう際には費用・人材なども必要となるため、リソースで難しいところもある。各支援団体の情報を把握した上でコーディネートすることが重要。
- ・ 支援者も疲弊するため、支援の支援が必要な事業。支援者に対する支援の検討や、ねぎらいなども必要。枠組みの中心に居る人ほど、そういった点に配慮が必要。

### 🗨️ 居場所の一元的な把握、可視化が重要

- ・ 孤独・孤立の観点では、人によって、適切な居場所は異なることから、様々な居場所が必要。
- ・ PF で関係する支援団体がせっかくながつながるので、支援・相談先の一覧のように、居場所を一元的に把握し(居場所バンク)、その上で、居場所の可視化が重要。知らない、または、利用できないことが一番もったいない。
- ・ 居場所のマッピングに当たっては、ここでは研究をしている、ゲームをしているなど、困っている人を含め広く住民に目に見える形で居場所のマッピングになると効果的。
- ・ 同時に、広報の取組が重要。例えば、市の祭り、イベントなどで積極的に紹介してもらうことが必要。発表の機会の場を設けられるようにできると効果的。



地域における多様な問題を解決するため、支援団体が連携して活動を行うには、どこが何が出来るか、得意なのかを把握し、問題を解決するために活動指針を定めなければなりません。そのための支援コーディネーターが重要です。

株式会社 やまと  
原田秀昭

5.自治体等との打合せ記録一覧				
No.	日時	打合せ相手団体	出席者 打合せ相手	NRI
1	7/31(月) 15:00-16:00	生駒市 福祉健康部 福祉政策課 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	上野様、田中様、後藤 様、齊藤様、地頭江様	生駒、谷本、宮澤
2	8/17(木) 9:00-10:00	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、後藤様、齊藤 様、地頭江様	生駒、宮澤
3	9/19(火) 9:00-10:00	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、後藤様、齊藤 様、地頭江様	生駒、谷本、宮澤
4	9/22(金) 9:30-10:30	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、後藤様、齊藤 様、地頭江様	生駒、谷本、宮澤
5	10/25(水) 9:00-10:00	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、齊藤様、倉田様	谷本、宮澤
6	11/13(月) 15:30-16:30	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、齊藤様、倉田様	宮澤
7	11/30(木) 9:00-10:00	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、齊藤様、倉田様	生駒、宮澤
8	12/14(木) 10:30-11:30	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、齊藤様、倉田様	宮澤
9	2/6(火) 10:00-12:00	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、後藤様、齊藤 様、地頭江様	生駒、宮澤
10	2/8(木) 13:30-15:00	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、地頭江様	生駒、宮澤
		いこま福祉会 障がい者支援センター	浅井様	
11	2/9(金) 10:00-12:00	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	地頭江様、倉田様	生駒、宮澤
		フリースクール和草	溝口様	
12	2/16(金) 10:00-12:00	生駒市 福祉健康部 地域包括ケア推進課 地域共生サ ミット推進室	田中様、倉田様	宮澤
		株式会社 やまと	原田様	

# 自治体による従前からの取組

## ■ 複合型コミュニティ(※)の構築推進

### (取組概要)

地域の子どもや高齢者、子育て中の人や働く現役世代の人、地域内外の企業、NPO 等の市民団体など、あらゆる主体がそれぞれの役割と相互に関わる場を持ち、時には参加者として、時には企画・運営側としてコミュニティに参画することで、地域に必要なあらゆる分野の活動が自律的に生まれる一定範囲内における主体間のつながり。

図表 複合型コミュニティ(まちのえき)

# まちのえき

COMMUNITY STATION

<p># 捨てる</p> <p>あなたにとってのごみは誰かにとっての宝物になるかもしれない</p>	<p># 飲む・食べる</p> <p>形態は様々 飲食店のかたち</p> <p># 読む</p> <p>まちの小さな図書室</p>	<p># 売る・買う</p> <p>となりの畑で採れた野菜も手づくりの編み物も持ち寄れば立派なマーケット</p>	<p># 遊ぶ</p> <p>誰もが自由に参加できる遊び場</p>	
<p># 測る</p> <p>健康への第一歩 まちかどの保健室</p>	<p># 運動する</p> <p>みんなで元気な身体づくり</p>	<p># 創る</p> <p>修理が得意なおっちゃんがたくさん集まればそこはまちの工場</p>	<p># 働く</p> <p>ご近所さんとシェアオフィス</p> <p># 楽でる</p> <p>暮らしの中の音楽祭</p>	<p># 移動する</p> <p>ちょっとそこまで 小さな移動の発着場</p>
<p># 耕す</p> <p>みんなで「農」を営む</p>	<p># 学ぶ</p> <p>ご近所先生から学ぶ</p>			

あなたのウチのすぐ近くで、「あったらいな」を叶える場所。

近所の子どもや中学生さん、子育て中の人やお年寄りまで、みんなの「あったらいな」が集まるその場所は、まるで多く人が行き交う「駅」のよう。まちなかに行き先が増えたと変わる、日々の暮らし。ここでは、一人ひとりが暮らしを楽しむ主人公。そんな「まちのえき」を地域でひらき、楽しむ暮らしをみんなでつくっていきましょう。

生駒市  
問合せ：環境コミュニティ推進課 0743-74-1111(内線2061)

■ 生駒市子ども・若者総合相談窓口(ユースネットいこま)

(取組概要)

不登校や引きこもり、ニートなど、様々な困難や生きづらさを抱える生駒市内の子ども・若者について、豊富な経験や知識を有する相談員が面談等により聞き取りを行い、必要に応じて臨床心理士による心理相談や訪問支援員による自宅等への訪問(アウトリーチ)を行いながら、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」に参加する専門機関と連携してそれぞれの状況に応じた最適な支援を実施。

図表 ユースネットいこま HP

生駒市子ども・若者総合相談窓口

**ユースネットいこま**

☎ 0743-74-7100

メールでのお問い合わせ

【相談時間】火・木～日 9:00～17:00 ※月・水曜日、祝日・年末年始を除く  
〒630-0245 奈良県生駒市北新町12-32 教育支援施設2階

トップ ABOUT US HOW TO USE FLOW EVENT FAQ ACCESS

学校に  
いられない

外に  
出られない

仕事に  
つけない

将来が  
不安

ひとりで悩まないで  
お気軽にご相談ください

相談無料

☎ 0743-74-7100  
スマホでタップすると発信できます

📧 お問い合わせフォーム  
必要事項を入力いただき送信してください

ユースネットいこま  
INTRODUCTION

📄 ご利用方法  
HOW TO USE

🕒 ご利用の流れ  
FLOW

ユースネットいこまようこそ！

生駒市子ども・若者総合相談窓口(ユースネットいこま)は、不登校やニート、引きこもりなど様々な困難を抱える子ども・若者やその家族の方のご相談を受け、今後の自立に向けた一歩を踏み出すためにはどうすればいいかを一緒に考え、支援する機関として平成30年1月26日にオープンします。

相談支援のほか、困難を抱えた子ども・若者やその家族の「居場所」づくりに向けたイベントなども開催していく予定です。ご相談は無料です(予約制)。お気軽にお問い合わせください。

オンライン相談を始めています。

新型コロナウイルス感染が不安な方や、外出が難しい方のために、オンライン相談 (Zoom、Skypeなど) を始めています。オンライン相談をご希望の方は、お申込みの際にスタッフまでお伝えください。

施設案内

生駒市子ども・若者総合相談窓口  
ユースネットいこま

■ 生駒市子どもの居場所・学び支援室(いきいきほっとルーム)

(取組概要)

主に不登校傾向にある中学生を対象に、個別指導を中心に子どもたちの実態に沿った学習支援を行うとともに、学校と連携を密にし、無理のない形で学校への復帰支援を実施。

図表 いきいきほっとルーム



試行的事業

① シンポジウムの開催

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称: いこま孤独・孤立対策連携プラットフォーム設立記念シンポジウム 孤独・孤立～ゆるいつながりでもええやん～</li> <li>日程: 2024年2月18日(日)14時00分～16時30分</li> <li>会場: コミュニティセンター 文化ホール</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>来場者数: 300人程度(現地200人程度、オンライン100人程度)</li> <li>満足度: 「満足」との回答が85%以上</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立問題・取組の自分事化や身近な取組への理解向上を狙いとした、地域で活動を実践する団体・組織関係者を中心としたパネルディスカッション</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民やPF参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識の共有及び理解向上を図る。</li> </ul>

▼プログラム内容・実施結果

・ プログラム内容

時間	所要(分)	内容	登壇者
14:00～14:05	5	開会	市職員
14:05～14:50	45	基調講演	大西連政策参与
14:50～16:10	80	パネルディスカッション	コーディネーター: 湯浅誠氏(認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長) パネリスト: 溝口雅代(一般社団法人和草 代表理事) 山下博史(萩の台住宅地自治会長) 花山幸江(生駒市子ども・若者総合相談窓口ユースネットいこま相談員) 西谷裕輝(一般社団法人社会福祉士事務所Bright 代表理事)
16:10～16:30	20	座談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>大西参与</li> <li>湯浅氏</li> <li>市長</li> </ul>
閉会	2	閉会	市職員

図表 チラシ

The image shows two promotional posters for the symposium. The left poster is the main event flyer, featuring the title '孤独・孤立 ゆるいつながりでもええやん' and the date '令和6年2月18日(日) 14:00～16:30'. It lists the venue as '生駒市コミュニティセンター/文化ホール' and the fee as '250名'. The right poster is a speaker introduction flyer, titled '登壇者のご紹介', and lists the speakers: 大西連 (Daiyoshi), 湯浅誠 (Yoshizumi), 溝口雅代 (Mizuguchi), 山下博史 (Yamashita), 花山幸江 (Hanayama), and 西谷裕輝 (Nishigaki).

図表 パネルディスカッション

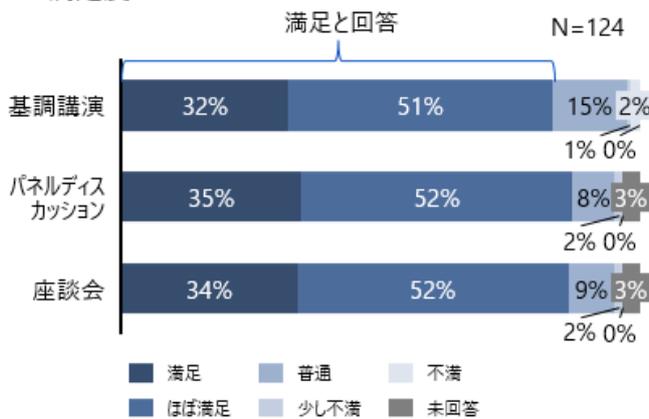


図表 座談会

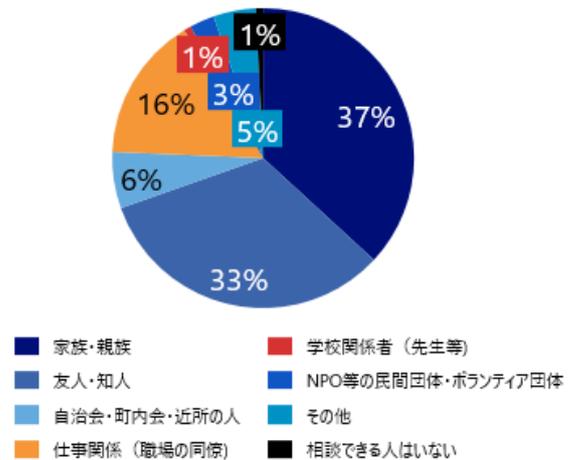


- シンポジウム開催に当たって、参加者に対して満足度や不安や悩みを感じた時の相談先などをアンケート調査し、満足度についてはいずれのセッションについても高い評価を得ることができた。
  - 参加者の満足度 → 「満足」という回答が 85%程度
  - 不安や悩みを感じたときの相談先 → 「家族・親族」、「友人・知人」といった回答が多い。「相談先がない」という回答はごく僅か。

■ 満足度



■ 不安や悩みを感じた時の相談先（複数回答可）



- アンケート自由記載（一部抜粋）
  - 孤独・孤立は誰もがなりえること、地域で支える仕組みづくりのためには、住民である自分自身が何ができるかを考えることが大切であることがよくわかった。
  - 生駒市が抱える課題や生駒市での取組について、知らないことも多く、生駒に根差した活動をされているパネラーの話をきっかけに身近な地域での活動を知るきっかけとなった。
  - 福祉的に難しく構えて考えず、もっとナチュラルにフック（つながり）を広げていくという考え方に共感した。

## ② 先進事例の視察

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>視察先：第5回地域共生社会推進全国サミット in とよた</li> <li>日程：令和5年10月12日(木)、13日(金)</li> <li>参加者：「連携プラットフォーム」の構成員である40団体のうち、30団体が参加</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策の認識・理解向上</li> <li>団体間での相互の取組理解</li> <li>PFメンバー間で相談のできる関係性の形成</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF関係者の相互理解、孤独・孤立への理解向上を狙いとして、孤独・孤立対策に関する現状と先進事例について学ぶとともに、PFのメンバー同士の意見交換等を実施。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策の先進事例を学び、構成員間の連携を強化するとともに今後の取組に反映する。</li> </ul>

### ▼視察の成果

- ”地域住民×福祉施設×学生”の交流の先進事例等から孤独・孤立対策に資する示唆・考え方を学んだ。
- PFメンバーからは、学生と福祉とのマッチングや地域交流による若い人の人材発掘などにより、孤独・孤立対策を進める点などについて意見があった。

図表 豊田サミットで学んだ考え方・事例

豊田サミットで学んだ考え方・事例

### 株式会社musun

- 大学3年生時、ボランティアしたい学生と福祉施設のマッチングアプリサービスを開始。
- 事業を行う中で、地域づくりの重要性に気づき事業領域を拡大。地域住民×福祉施設×学生の交流による、福祉マルシェやSDGsイベント等、地域交流を促進する取組みの企画等。

みなさんが気軽に福祉体験に踏み出せる環境を提供します

**プラットフォームメンバーの意見**

ボランティアしたい学生と福祉とのつながるアプリや地域交流での若い人の人材発掘により、孤独・孤立対策を進めれば、地域力がパワーアップするのでは。

大学生らしい今どきのツールとニーズをうまく組み合わせた福祉とボランティアのマッチングについて、とても魅力的に感じました。

**関連する市内の取組の例**

※検討中のものを含む。

- 孤独・孤立対策に関するポータルサイトを作成
- ⇒ 団体がイベント等の担手の募集をかけたリ、地域活動に参加したい人が情報収集に活用できるページを設置

生駒市 孤独・孤立支援ポータルサイト

- 具体的な施策や取組のヒントを得ただけでなく、PFのメンバー間において、孤独・孤立対策に取り組む姿勢への認識共有や、連携の強化が図られた。

図表 視察の結果

・他の委員さんと話す良い機会をいただきありがとうございました。

・全てやらなくても、ほかの委員さんや市民の方たちと一緒にやれば良いことに気づかせていただきました。

・「支援する側」だと思わず、「助けられ上手」になることも共生社会実現の一歩であると学びました。

子ども・若年層から引退したシニア、障がい者層まで、地域の役割を担える仕組みをつくり「地域に育てられ、地域に貢献する」という機運が高まっていけば、孤独・孤立対策を含め、様々な課題が解決していくのではないかと感じました。

多様性を認めるだけでなく、包摂(ともに)することが必要

市内で活躍している企業・注目すべき関係者が多く参加してもらっていることに感心した。これを契機に、是非相互の関係性を深めていただきたい。

孤独・孤立などのワードだけが先に出現してしまうと、関係機関が偏ってしまいがちになるが、サミットでも言われていた福祉色を薄めることで市全体として、取り組む体制ができると感じた。

少しでも人と人が一つのことを目標として共に行動することは、重要と感じた。

### ③ 孤独・孤立対策に係るポータルサイト

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称:生駒市 孤独・孤立支援ポータルサイト「ここぼ」</li> <li>サイト開設日:2024年2月29日(木)～</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイトへのアクセス数:864</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民に向けた情報発信だけではなく、支援団体での活動の活性化にもつながるよう、支援団体によるイベントの担い手や参加者募集も実施。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民に向けた相談窓口や支援策の周知。</li> <li>支援団体・者の取組の活性化。</li> </ul>

#### ▼概要

- 孤独・孤立に関する相談窓口や支援を紹介。
- 様々な関係者が連携して活動できるよう、支援者・団体によるイベントの担い手や参加者募集などの情報発信も実施。

図表 ポータルサイト ホーム画面



- 「ひきこもり」、「子育て」、「人間関係」、「介護・高齢者」、「病気や障がい」等、幅広く孤独・孤立に関する悩み事に対する支援・相談先を掲載し、ワンストップで対応。

図表 ポータルサイト 支援検索画面



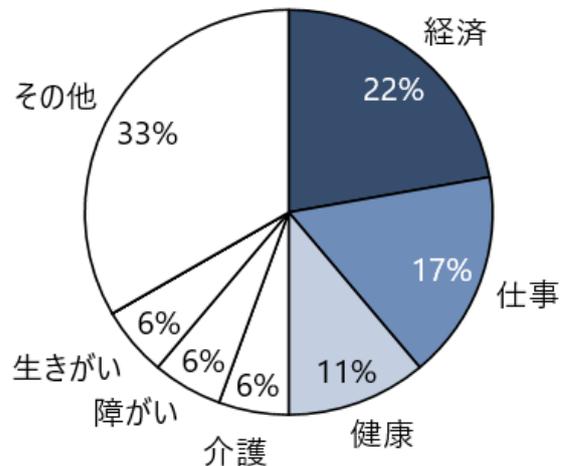
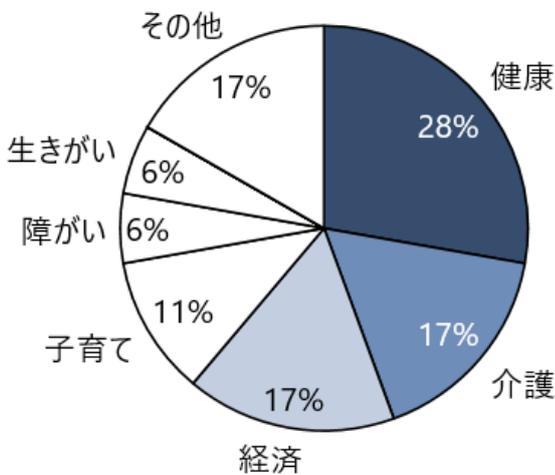
④ 孤独・孤立に係るアウトリーチ(訪問調査)の試行実施	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査機関:2024年2月1日~2月20日</li> <li>調査対象エリア:谷田町(訪問調査数:102件/郵送調査数:145件)</li> <li>調査方法:訪問調査及び郵送調査</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答率:訪問:51.0%、郵送:26.9%</li> <li>新たに把握した孤独・孤立を抱える人の数:22人(訪問:13人、郵送:9人)</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問調査については、地域住民と市職員又は地域包括支援センター職員の2人ペアで実施。</li> <li>訪問調査及び郵送調査を実施することで、回収率や把握できる内容の比較検証を実施。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の力を活用して孤独・孤立の状態にある人を早期発見する手法を構築し(調査ツールの作成、調査方法の検証)、横展開のための成果・課題を整理。</li> <li>潜在的なニーズを含む孤独・孤立の実態把握。</li> </ul>

▼今回把握できた悩みごと

- ・ 保育所入所や、認知症関連の悩みの他、金銭面での不安、生活環境(自宅・自宅周辺)に関する要望、近所や夫婦間の人間関係など、幅広い分野の悩みを把握することができた。
- ・ 外出減少や物忘れの懸念がある人(回答者の配偶者)について、地域包括支援センターが再訪問し総合事業につなげるなど、関係機関と連携して支援につなげた事例もあった。
- ・ 回答者本人のことだけでなく、認知症の疑いがある人や一人暮らし高齢男性など、地域で気になる近隣住民の情報も把握することができた。

■ 訪問調査 | 悩みの類型 (重複回答)

■ アンケート調査 | 悩みの類型 (重複回答)



※1「教育」、「仕事」、「DV」、「虐待」、「自死」は回答がなかった

※2「その他」...ごみ出しトラブル、ひきこもり、生活環境

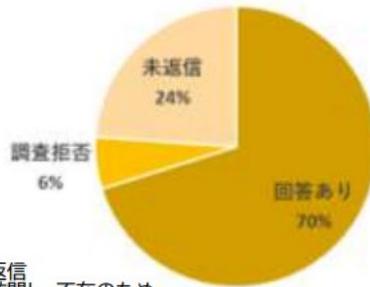
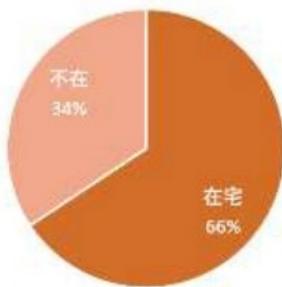
※1「子育て」、「教育」、「DV」、「虐待」、「自死」は回答がなかった

※2「その他」...夫婦関係、生活環境、ひきこもり、家の修繕

## ▼調査方法について

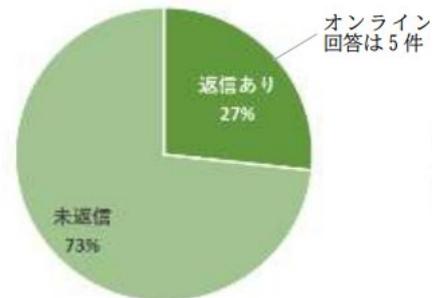
- 郵送調査に比べて、訪問調査の方が回答率が高い（訪問:51.0%、郵送:26.9%）。
- 回答があったもののうち、悩みごとを「あり」としている割合は訪問・郵送で同程度。  
（訪問:25.0%、郵送:23.1% ※悩みごとを「あり」と回答した者の数/回答者数）  
⇒回答率が高い分、郵送調査に比べて、訪問調査の方が把握できる悩みの数が多い。  
（訪問:12.7%、郵送:6.2% ※悩みごとを「あり」と回答した者の数/対象者数）
- 訪問調査について、不在時には再度訪問したことにより、最終的に 66%の家庭について在宅時に訪問することができた。（参考:1回目終了時点の在宅率は 48%）
- 回答者の性別は、訪問調査では女性の割合がやや高い一方で、郵送調査では男性の割合が顕著に高い。  
（訪問・・・男性:42.3%、女性 57.7% 郵送・・・男性:82.1%、女性 17.9%）

○訪問時の在宅率(2回訪問含む) ○在宅時の回答率

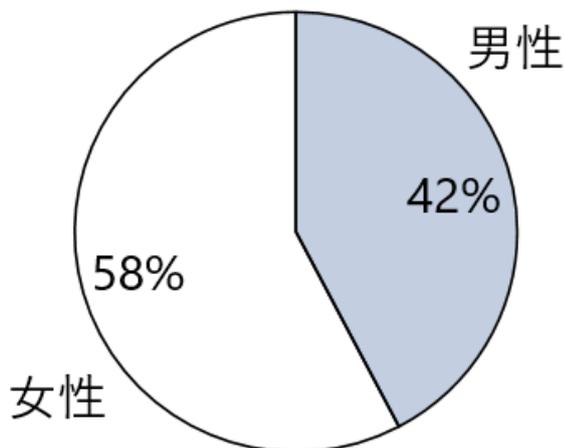


※未返信  
2度訪問し、不在のため  
郵送調査一式を投函するが、  
未返信の者

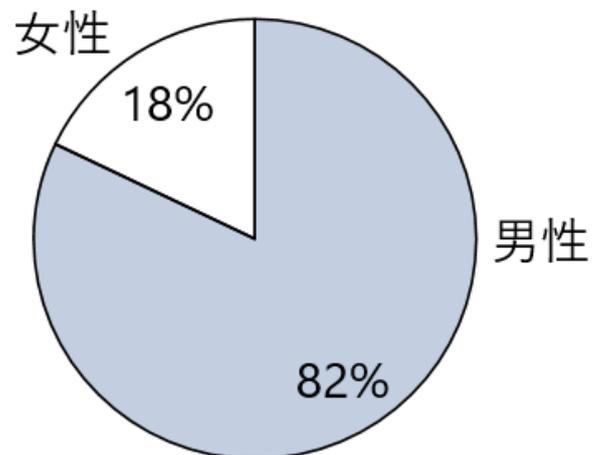
○アンケート返信率



■ 訪問調査 | 回答者男女比



■ アンケート調査 | 回答者男女比



### ▼横展開を見据えた成果

- 調査を担った自治会や地域包括支援センター職員にとっても、「面識のなかった住民や地域のことを改めて知る契機となった」との声が聞かれるなど好影響があった。
- 調査票やインタビューガイドなど、調査に必要なツールを作成・試行することができた。
- 訪問調査の方が回答率が高いことや、郵送調査の場合は男性の回答者の割合が顕著に高くなることなど調査手法毎の特性を把握することができた。

図表 今回のモデル事業の実施に当たって作成したツール

	ツール名	内容・補足説明
①	聞き取りの流れ	インタビューガイド。聞き取り方や留意事項等を整理
②	実施に当たっての事前案内	調査趣旨・概要の説明及び協力依頼。 自治会回覧用、訪問調査対象戸への送付用に2種類作成
③	調査様式(訪問用)	本様式に基づいて聞き取りを行い、調査員が記入する。
④	調査協力及び個人情報の取扱いに係る同意書	調査実施に際し、調査員から説明を受けて、調査対象者が署名。
⑤	他機関への情報共有に係る同意書	聞き取った悩みごとを担当機関・担当部署に共有するための同意書。聞き取り後に調査対象者が署名。
⑥	調査員証	訪問時に、調査員が対象者に提示するもの。市が発行。
⑦	調査協力依頼(郵送用)	調査趣旨・概要の説明資料。調査様式と合わせて送付。
⑧	調査様式(郵送用)	アンケート用紙。内容は③調査様式(訪問用)に準ずる。

⑤ 孤独・孤立支援ポータルサイト啓発ステッカーの作成	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立支援ポータルサイトの周知のためのステッカーを作成し市内各所に掲示</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲載箇所数:約 5000 箇所</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討過程において、PF 参画メンバーとの意見交換を実施し、相談窓口の周知・認識向上が重要との意見を踏まえて実施。</li> <li>だれもが分かりやすいデザインとし、多くの公共施設等に掲示。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の広報紙や報道発表など、通常の周知方法では届きづらい層にアプローチするために、日常生活の動線にある施設に、かつ、大量に掲示し、自然と目につく形での周知を行う。</li> </ul>

▼実施内容

- 明るい色味や温かみのあるロゴを使用するほか、載せる情報を必要なものに絞る(QR コード、サイト名、相談を呼びかける文言等)など、誰もが分かりやすいデザインを設計。

図表 デザイン



- 日常生活の動線上で自然と目につくことを狙いとして、公共施設ほか、病院、事業所等の窓口や掲示板、待合室、トイレ等、人目のつきやすい場所に幅広く掲示を依頼。

図表 掲示場所

掲示予定場所	箇所	配布数	合計
市内公共施設	20	10	200
PFメンバー関連施設	42	10	420
市内スーパー・コンビニ等	69	5	345
市内病院・薬局・歯科・助産院・訪問介護	220	3	660
自治会掲示板	128	5	640
さきめしいこま登録店	235	3	705
小中学校・高校・大学	22	30	660
地域包括支援センター	7	5	35
障がいサービス事業所	52	5	260
介護保険サービス事業所	118	5	590
いこま空き家流通促進プラットフォーム参画事業所	46	5	138
郵便局	11	5	55
近鉄14駅(ケーブル含む)	14	10	140
生駒市役所 各窓口・トイレ	70	1	70
合計			4,918